

## 平成 21 年度「ニホンジカ保護管理」実施報告

## I. 実施項目

## 1. 個体数調整

大台ヶ原ニホンジカ保護管理計画（第 2 期）（計画期間：平成 19 年度～23 年度）（以下「保護管理第 2 期計画」という。）に基づき、個体数調整を実施した。

また、新規捕獲手法等の検討を行った。

## 2. 植生保全対策

保護管理第 2 期計画に基づき、区域保全対策、単木保護対策を実施した。

## 3. 生息環境の整備

森林の衰退を抑制し、森林の機能を有効に活かすために、周辺地域での関係機関等による森林整備の取組と連携を図りつつ、森林保全に努めることとしている。そこで、大台ヶ原周辺地域におけるニホンジカ保護管理に関する関係機関間の情報共有等を目的に「大台ヶ原・大杉谷ニホンジカ保護管理連絡会議」を開催した。

## 4. モニタリング調査

保護管理第 2 期計画に基づき、ニホンジカの生息状況や植生への影響について調査を行った。

## II. 部会等の開催状況

表 1 部会等の開催状況

年	月日	会議
平成 21 年	7 月 9 日～10 日	現地検討WG（森林生態系部会と合同での防鹿柵の設置現場視察）
	8 月 20 日～21 日	現地検討（防鹿柵の設置現場打合せ）
	9 月 1 日	第 1 回個体数調整WG
	11 月 6 日	第 1 回ニホンジカ保護管理部会
	12 月 14 日	大台ヶ原・大杉谷ニホンジカ保護管理連絡会議
平成 22 年	1 月 19 日	第 2 回個体数調整WG
	2 月 9 日	第 2 回ニホンジカ保護管理部会
	3 月 1 日	第 1 回評価委員会

	平成21年									平成22年		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
評価委員会												○
ニホンジカ保護管理部会								○			○	
地域意見交換会								○				
1. 個体数調整	← 麻醉銃、アルパインキャプチャーによる捕獲 →											
	⇔ 装薬銃・くくりわな									⇔ 装薬銃・くくりわな		
	← くくりわなによる試験捕獲、新規捕獲手法の検討 →											
							○ WG				○ WG	
2. 植生保全対策	← 植生保全対策実施地点の決定・測量・施工 →									← 次年度以降の詳細検討 →		
				○ 現地WG								
3. 生息環境の整備										○ 連絡会議		
モニタリング調査							⇔ 生息密度、植生への影響調査					
	←			→								
							←			→		
	捕獲個体調査											

図1 平成21年度「ニホンジカ保護管理」実施状況

### Ⅲ. 実施内容

#### 1. 個体数調整

保護管理第2期計画に基づき、2～3年で生息密度を10頭/km<sup>2</sup>に低減することを目標として実施した。(→参考資料2-2、2-3参照)

##### (1) 捕獲目標頭数

100頭

##### (2) 実施結果

89頭

##### (3) 手法

麻醉銃、アルパインキャプチャー、装薬銃(猟銃)、くくりわな

##### (4) 新規手法等の検討

ハイシートを用いた試験を実施した。(→参考資料2-4参照)

また、ミヤコザサ草地を餌場として利用するニホンジカ個体数は夏期に増加し、剥皮等による森林への影響も夏期に大きくなることから、夏期を含むドライブウェイ開放期間中における個体数調整の重要性は高い。そこで、平成21年度はドライブウェイ閉鎖期にくくりわなによる捕獲を行うとともに、ドライブウェイ開放期間中における利用者の安全性を確保した上でくくりわなの効率性の検討等を行うことを目的として、利用閑散期に試験を行った。(→参考資料2-3参照)

## 2. 植生保全対策

森林生態系部会と合同で現地検討 WG を開催し、保護管理第 2 期計画に基づき、平成 21、22 年度の防鹿柵設置箇所について、西大台のカツラ谷、コウヤ谷において現地検討を実施した。また、単木保護対策である剥皮防止用ネットについては、東大台の中道沿いにおいて、老朽化したネットの巻き直し及び新規施工を実施した。(→資料 1-1 参照)  
《防鹿柵等整備の基本方針》

### (1) 区域保全対策 (防鹿柵)

①実施場所: 減少傾向にある植物種、多様な生物の生息環境に着目した設置場所を選定。  
環境、植生、地形、両生類の産卵場所を考慮するとともに、シカの被食からの保護の緊急性、歩道等からの景観への配慮、設置コストなどを総合的に判断し、まとまった範囲で設置する。

### (2) 単木保護対策 (剥皮防止用ネット)

①実施場所: シカの剥皮により枯死しやすいトウヒ、ウラジロモミが主要構成樹種となっている東大台において、平成 19 年度に引き続き、中道周辺域・尾鷲辻まで実施。

②実施対象: 母樹。剥皮を受けやすく剥皮により枯死しやすい樹種  
(トウヒ・ウラジロモミ・コマツガ・リョウブ・アダモ・マンサク・ナカマド等)

③優先順位: 実施から年月が経過している場所 (要補修カ所)

区域保全対策が実施されておらず (未実施場所)、シカの剥皮害が大きな場所  
(風致景観上等の理由により防鹿柵の設置がなじまず、シカの食害が多い場所)

## 3. 生息環境の整備

大台ヶ原・大杉谷ニホンジカ保護管理連絡会議を開催し、関係機関が持っているニホンジカ保護管理に関する情報交換を行うとともに、今後の連携の在り方等について検討を行った。  
(→参考資料 2-7 参照)

### 【構成機関】

近畿中国森林管理局、奈良県、三重県、上北山村、川上村、大台町、紀北町

### 【事務局】

近畿地方環境事務所

## 4. モニタリング調査

(1) 生息密度調査 (→参考資料 2-5 参照)

糞粒法及びブルートセンサスにより生息密度指標の把握を行った。

(2) 捕獲個体調査

個体数調整により捕獲した個体の外部計測を行うとともに栄養状態、妊娠の有無について分析を行った。

(3) 行動圏調査 (→参考資料 2-6 参照)

東大台、西大台で各 1 個体に GPS 発信機を装着した。(データ一部未回収)

(4) 植生への影響調査

16 箇所において下層植生への影響の状況を調査した。